

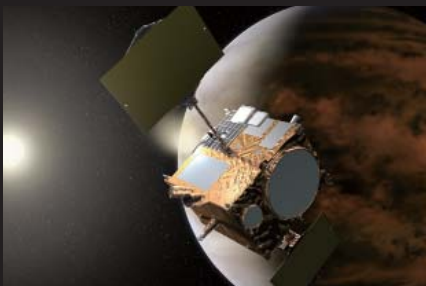
トピックス

人類の夢とニコン

遠い宇宙を知り尽くしたい、生活をもっと快適にしたい、生命のメカニズムを解明したい……。そんな果てしない夢が、あらゆる文明や技術を進歩させてきました。今も続く夢の探求。さまざまなシーンで、ニコンの技術がサポートしています。

宇宙を見つめるニコン製品

2010年5月、日本初の金星探査機「あかつき」が打ち上げられました。「あかつき」は金星大気の詳細を解明するのが目的で、その成果は地球環境の成り立ちや未来を読み解く手がかりになると期待されています。この「あかつき」には観測装置として、ニコンが開発に関わった光学センサーが搭載されています。



金星探査機 あかつき
(画像協力：池下章裕)



ハワイ・マウナケア山頂のすばる望遠鏡
(写真提供：国立天文台)

ニコンの映像製品も、1971年にアポロ15号で使用された「NASA仕様 Nikon Photomic FT_N」*から2009年11月に発売された最新のデジタル一眼レフカメラ「D3S」まで、未知の世界に近づきたいという人類の夢とともに幾度も宇宙を飛んできました。ニコンはこれまで、完成度が高く耐久性に優れたカメラ、そしてニコンの光学技術を集約した交換レンズ「NIKKOR(ニッコール)」の開発・製造を通じて、永年にわたり米国航空宇宙局(NASA)の活動に協力してきました。なお、ニコンの映像製品は国際宇宙ステーション(ISS)のロシア区画でも採用されています。

地球上からの宇宙観測にもニコンの光学技術は欠かせません。大型光学赤外線望遠鏡「すばる」には、遠い天体からの微弱な光の分析をする微光天体分光撮像装置や天体から届く光をさまざまな波長に分ける高分散分光器など、ニコンが開発した観測機器が搭載され、128.8億光年先の銀河の発見や星の組成の分析などに貢献しました。光を操るテクノロジーは宇宙誕生の秘密にも迫っています。

*「ニコン F」に、TTL中央部重点測光が可能なフォトリックFTNファインダーを搭載したモデル

快適な生活、医療の発展を支えるニコン製品

パソコン、携帯電話、液晶テレビ、自動車、エアコン……。私たちの暮らしは、あらゆるテクノロジーの基盤としての役割を果たす半導体デバイスが組み込まれた製品なしには成り立ちません。これらの製品の高機能化・高性能化は飛躍的に加速し、その進化を支えているのが半導体の微細化です。ニコンは、半導体露光装置のリーディングカンパニーとして、半導体の微細化に貢献してきました。最新装置は32nm世代以降の半導体製造に対応しており、ニコンのナノレベルの技術は私たちの快適な生活になくてはならない技術ともいえます。

一方、便利・快適さだけでなく、健康であることも私たちの願いです。そのために、生命のメカニズムの探求が日夜続けられています。ニコンのコンフォーカル顕微鏡、自動焦点維持装置「PFS」などによる細胞等の観察技術は、生物、医学、医療などの研究機関、大学の共同研究施設などで行われている最先端研究に貢献しています。